

令和5年度第1回秋田県立博物館協議会議事録

- 1 開催日時 令和5年8月2日(水)
午前10時00分～午後12時30分まで
- 2 開催場所 秋田県立博物館 大会議室
- 3 出席者 19名
 - (1) 委員
上野 智明 委員
梅津 一史 委員
木村 美穂 委員
佐々木美香 委員
佐藤 操 委員
高島 由美 委員
早川 敦 委員(協議会会長)
藤田 和彦 委員
本田 由香 委員
三河 直樹 委員
棟方 幸人 委員
 - (2) 生涯学習課 糸田 和樹 生涯学習・学習振興チーム学芸主事
 - (3) 事務局(博物館)
伊藤 真 館長
高橋 司 副館長
新堀 道生 展示・資料班長
加藤 竜 普及・広報班長
丸谷 仁美 学習振興班長
内田 隆仁 総務班長
菅原 柊太 総務班主事

4 議事概要

- (1) 開会
- (2) 館長あいさつ
- (3) 会長あいさつ
- (4) 案件
 - ア 報告「令和5年度博物館事業計画について」
 - ①調査研究、資料収集管理、展示活動について 展示・資料班から説明
 - ②教育普及、広報・出版活動について 普及・広報班から説明
 - ③学習振興活動、セカンドスクールの利用について 学習振興班から説明

報告についての委員からの意見及び質問は特になし。

イ 協議

地域や社会との望ましい関係を目指して

～生涯学習・地域交流・地域課題解決・デジタル化～

改正博物館法を受けて、これからの博物館に求められる多様化・高度化した役割・機能について事務局より説明し、委員から意見を伺った。

(委員) 令和5年度の事業計画の中で、年間通じてたくさんの活動を行っていると思うが博物館の中だけでなく、外部の団体などと連携することが大事だと思う。それによって内容が充実したり、新しい知見が得られたりすると思う。NHK for School という小学校を対象にしたデジタルコンテンツの中の「ものすごい図鑑」では、昆虫のいろいろな部分を拡大して詳細に見ることができる。独自のコンテンツだけでなく、いろいろな組織のコンテンツも上手に使っていただければいいのではないかと思う。博物館教室や子どもたちの夏、冬休みの活動を進めていくときに役に立つと思う。

(委員) 博物館は嫌いではないし、展示物を見るのは好きであるが、博物館から遠ざかっていたので、その反省も考慮しながら、どうしたら博物館に足が向くのか考えたとき、こういうおもしろいことをやっているという生の情報があればいいのではないかと考える。博物館のフェイスブックを見たが、こういう期間でやっていると書いているだけだった。開催していることだけであれば博物館のHPを見ればわかるので、生の学芸員の声が聞けた方がいい。魅力的な学芸員の方が多いので、学芸員の皆さんの視点で展示物の見方やおすすめなど紹介してくれればと思う。

(事務局) いろいろなSNSの形がある中で、フェイスブックを利用しているのは比較的高齢の方が多いかもしれない。発信の形で情報をキャッチする対象も変わるので、今後情報発信について検討していきたいと思う。

(委員) 街作りを考えたときに、いろいろな施設が秋田駅前に集中している中で、博物館は少し離れているのが現状である。2次交通を整備することが、大きく博物館の入館者数の増加につながるかは少し疑問である。博物館事業計画の中で館外講座をやっていると説明があったので、ここに来なければ学べないこともたくさんあると思うが、出張展示などやデジタルの活用などで対応してもらえればと思う。2次交通を整備したとして、必ずしもすべての方が博物館に行くことができるわけではない。ここに来れない方を館外講座などを活用することで多くの県民に学ぶ機会を提供することでできればいいなと考える。

(委員) メディアの活用ということであれば展示の導入としてメディアでの発信というのはデジタルが進んでいる中でも有効なのではないかと考える。展示会のタイミングや収蔵している資料などを紹介していただく紙面を用意しているが、先日博物館からQRコードで情報掲載できないかと相談を受け、承諾した。IT、デジタルにつながるような導入について積極的にご提案いただければ対応したい。SNSではインスタグラム、旧ツイッターなら、いわゆる目玉の紹介ではなく、実はなんてことないことを発信するだけでもいわゆるオンタイム感を伝えるだけでも食いつきはあると思う。改正博物館法ではさまざまな地域課題に向き合うという目標があるといえ、博物館については街作りと博物館とか人口減少と博物館といわれても一般の人は結びつきがあまりわからないのではないと思う。博物館として発信に活用する地域課題はある程度選ぶべきではないかと感じた。

(事務局) 社会的課題の解決となると大きな話のような感じがして、例えば街作りや過疎化に博物館が何ができるかと言われても分かりにくいかもしれない。より身近な話として、秋田県では高齢化という問題があるが、お年寄りでも足を運びやすく、鑑賞しやすい展示の工夫などができるのではないかと考える。また、障害がある方でも楽しめるような展示ができれば、共生社会づくりという点で博物館が地域課題の解決に貢献できる一つの例になると考えている。

(委員) 大人になって博物館を見て回ると情報量がものすごく多く、すごくいろいろなものがたくさん詰まっている面白い施設であると感じる。バスケットボールチームを運営しているが、入場者数やファンをどう増やしていくかが課題である。今まではターゲットを絞らずに広く認知度を高めるようにしていたが、段々それが難しくなり、今はある程度ターゲットを絞って指標を明確にしようとしている。今の若い世代、バスケットボールに関わらない人たちをいかに取り込んでいくかを課題にして取り組んでいる。博物館も対象を広くするというのもいいと思うが、ある程度ターゲットを決めてやると告知の仕方が変わるのではないかと思う。

(事務局) 毎年インターンシップを実施している、そのメニューの一つに自分で企画案を作ってみようというのがあり、生徒に考えてもらっている。その案を実践するまでは考えていなかった。わくわくたんけん室のアイテムを考えて実践したことはあるが長続きしなかった。若い世代の発想を取り入れるのは非常に興味深いと感じた。

(委員) 高齢者の立場から意見として、コロナ禍は、いろいろなところでデジタル化が急速に進み、ついていけないことが多かった。人の手を借りないとできないことがたくさんあった。交通手段に恵まれない、高齢者になると免許返納、一人では来れないという不自由さということもあり、婦人会などの団体利用で博物

館にくることが多かったが、これからは個人での利用も考えたい。高齢者になると目が見えにくい、耳が聞こえにくいなど不自由さが出てくるが、高齢者や障害者の立場に立った展示など配慮してくれれば来やすくなると思うので、そうなることを期待する。自分のペースで鑑賞できる博物館はいいなと思う。

(事務局) 資料保存のこともあるが展示室は暗いと思う。本館の特徴として解説員が10名いて、観覧者に寄り添えると思う。わかりやすく解説員が説明するので、ぜひ活用いただければと思う。高齢者や障害者の立場に立った展示の配慮といった視点でのアイテムの見直しというのも今後博物館で進めていきたいと考えている。

(委員) 昨年度、東京から地域おこし隊として秋田に来ている。秋田市の移住定住課で主に秋田への移住相談や移住後のケアをしているが、秋田への移住を考えている人は何かしら秋田に興味を持っている。最初は秋田の公園や教育機関に興味を持っているが、段々掘り下げていくと移住しようとしている秋田の歴史を学びたいとか、秋田のことを知りたいという声が出てくる。博物館を観覧している中で私が一番目を引いたのは、ロビーに展示している戦時ピアノ2台と自動演奏ピアノ1台である。大学で音楽を専攻していたこともあるが、なぜこの秋田県に戦時ピアノがあるのか、きれいな状態のままであるのが珍しいと感じる。なぜ秋田県に戦時ピアノがあるのかという視点で近隣の学校に平和教育の一環で戦時ピアノのコンサートをできないか考えている。コンサートはもちろん、移住を検討されている方、転勤で来られた方など歴史に目を向けることで新たな発見とか秋田の土地への興味とか感謝とかいろいろな感情がわくと思う。秋田にずっと住まわれていた方とは違った視点でものごとをみることができるのではないかと思う。

(事務局) 戦時ピアノを活用したロビーコンサートにつきましては現在検討中である。戦時ピアノを披露する機会がある場合にはホームページなどを通じて広報していきたいと考えている。

(委員) 現在、子どもたちはタブレットを一人一台配付されており学校から家庭に持ち帰って学習活動に活用していて、タブレットに向かう時間が長くなっていて、昭和世代とは違うと感じる。最近いろいろな情報番組で、昔とは違って映像を使うなど視覚的に理解しやすい番組が多く、大人が見ても分かりやすく面白いと感じる。そのような方法を活用するのも一つの方法であると感じる。学校の授業で活用できたり、宿題、自由研究の課題になったりするものがあるといいなと思う。

(事務局) 現在はタブレットを使用したい場合、タブレットを持ってきていただき、展示物のQRコードから読み取ってもらい資料の画像、説明を利用してもらって

る。展示室内の資料のうち、裏側など見えない部分や普段見られない資料に関しては、タブレットを活用して見られるようにするなど今後対応していくことも考えている。

(委員) 博物館がいろいろなことを求められているようであるが、何でもできるわけではないので博物館がもっている資料とそれに関わる情報を受取手に適切な形で提供することにつきると考える。それができる能力で博物館ができることが決まってくるのではないかと考える。デジタルアーカイブを進めるにあたって、デジタルデータの保存管理について博物館で規定がないと思うので、博物館の資料管理自体のデジタル化が本来必要である。博物館にあるデータの使い回しがより効率的にできるような管理法があればいいと考える。また、著作権などの問題ですべてがオープンデータとならないと思うが公開されるデジタルアーカイブについてどのように利用できるか明示すると、利用する側にとって非常に使いやすくなる。博物館のもつ画像データに関して、利用者が完全にフリーに使えるかどうかは博物館だけでは判断できないと思うが、県としてのガイドラインを通して、可能な範囲で使えるようにしてもらえればと思う。そのようになると、博物館が公開する画像データや説明などのテキストデータが完全にフリーになっているいろいろな場面で自由に活用され、博物館の画像データの価値、ひいては博物館の存在価値が高まると考える。公共の施設のもっているものは、県民の財産であるので自由に使ってもらえるようになればと思う。

(事務局) デジタル化について、デジタルデータの精度は日々進歩しており、10年前に撮影した画像データは拡大すると画質が荒くなってしまい実用に耐えない。撮り直しも含めて、長く使える、質の高いものが今後必要になってくる。デジタルデータの利用に関しては、県でもガイドラインを作成して進めている。まだ不十分なところもあるが、ここ数年で詰めていく予定である。利用する方が少しでも使いやすいデジタルデータというものを整備していきたい。

(委員) 小学校では子どもたちに一人一台タブレットが配付されて3年目となる。子どもたちは日常的にタブレットを使用して学習活動に励んでいる。博物館のホームページを拝見しているが、収蔵品を紹介しているアキハクコレクション、小学生が楽しめるコンテンツとしてアキハククイズというものがあり、とてもいいと感じている。これからは特に普段展示していないけれども、博物館に収蔵しているものをアキハクコレクションなどで紹介してもらえればと思う。博物館にある収蔵品は、秋田の宝であるのでぜひ紹介してほしい。ところで、博物館ホームページにリンクがどこまで貼れるのか教えてほしい。全国の人が、博物館に求められるものを探しにいったとき、それが拡大して行って、観光などにもつながればいいのではないかと。例えば秋田の世界遺産、西馬音内の盆踊り、花輪の道の駅など実際に足を運んで見てみると非常にいいコンテンツがある。博物館のホームページがハブになって、秋田の観光施設の紹介など広げること

ができるのではないかと思う。

(事務局) 秋田県立博物館では秋田県博物館等連絡協議会という団体の事務局を担当しており、あきた文化的施設案内処というホームページを運営している。県内の博物館等の施設が情報を掲載している。しかし、ホームページの設計が古いため、今年度リニューアルを検討している。そういった中でいろいろなものをリンクできるような県内の博物館等のハブ的機能というものを強化できないか、担当としても考えているところである。いろいろな情報をそこを見にいけばわかるというのが強みであるが、同時に課題としてはコンテンツを常時更新し続けていくのは大変であるということである。

(委員) 秋田県には4つのジオパークがあるので、ジオパーク推進協議会と連携することがいいと思う。博物館もジオパークに力を入れているが、例えばジオパークの学芸員に資料を紹介してもらうなどもあるのではないか。博物館の展示と各ジオサイトとのリンクさせたり、グーグルのマップと対応させたりして、この岩石はどここの場所で見られるか探すことが可能になると、博物館を拠点にして、それでは実際に現場に行ってみようかとなるのではないかと考える。やはり人的スタッフにも限りがあるので、お互いが効果がある連携が大切ではないかと考える。特にこれから連携を強化したい機関があれば教えていただきたい。

(事務局) 連携というと、ジオパークとは展示会るとき連携している。例えば秋田の石ころという展示のときは、床に敷く地図などを提供していただいた。各種イベントで、様々な機関や団体から協力いただいている。次回農業科学館との連携展示もある。もっと息の長い連携は、考えてみるとそういった視点はなかったので、これから検討していきたいと考える。

ウ その他 令和5年度ミュージアム活性化事業「特別展」の評価依頼について

ミュージアム活性化事業に係る外部委員評価制度について説明し、令和5年度特別展「人形博覧会」の評価を依頼した。

(5) 閉会